

編集後記

今号は「アジアの平和創造のために博物館は何ができるのか」というテーマで、国際平和ミュージアムと学術交流協定（友好交流協定）を締結している博物館を中心に、貴重な論文が掲載されました。1990年代以降、公立の平和博物館では、第二次世界大戦中の日本の加害に関する内容が減少していますが、「草の根」の平和資料館では展示を続けています。特に、アクティブ・ミュージアム「わたしの戦争と平和資料館」(wam) や岡まさはる記念長崎平和資料館では、日本の加害を大きく扱っています。また、侵華日軍南京大屠殺遇難同胞記念館や南京大学ラーベ記念館では南京虐殺を取り上げていますが、日本で報道されることはほとんどありません。

本テーマに寄せた国際平和ミュージアムの安齋育郎名誉館長（平和のための博物館国際ネットワーク（INMP）代

表）の論稿では、平和学の視点で現状の分析と今後の課題を明らかにしています。そこでも触れられていますが、INMPでは2020年9月に京都と広島を会場に開催される第10回国際平和博物館会議や電子空間上でのアジア平和博物館情報誌（仮称）の立ち上げなどの今後アジアの平和博物館の交流を活発にする上で貴重な提言をしています。国際平和ミュージアム平和教育研究センターでも「3.11後の平和博物館の展示内容の改善と国際ネットワークの構築」をプロジェクトとして進めており、INMPの活動を支援しています。来年の国際平和博物館会議には多くの人々が集い、国内外の平和博物館関係者らが活発に交流をする場となることを期待しています。

山根和代（立命館大学国際平和ミュージアム
平和教育研究センター運営委員）

投稿へのお誘い

1. 立命館平和研究—立命館大学国際平和ミュージアム
紀要—では、以下にあげるような、広義の平和に関する研究論文又は学術実践報告の投稿を求めます。

- ・ 平和に関する学術研究
- ・ 平和に関する教育実践報告
- ・ 博物館活動
- ・ 博学連携

2. 種類と分量

掲載記事の種類と分量は、下記のとおりとし、編集委員会で決定、または承認されたものとします。フォーマットは40字×30行とします。

①論文	12,000字～40,000字
②資料紹介	4,000字～20,000字
③研究ノート	4,000字～16,000字
④書評	4,000字～8,000字
⑤調査・研究	4,000字～20,000字
⑥実践報告	4,000字～20,000字
⑦研究展望	4,000字～12,000字
⑧時評・コラム	4,000字～6,000字

3. 言語

原則として日本語、横書き、テキスト形式によるもの。英文の原稿については、事前に編集委員会にご相談ください。

4. スケジュール

7月第1土曜日…原稿応募申込締切り
以下の情報をファックス又は郵送
（ファックス書面又は封筒に朱書きで「立命館平和研究」応募と明記すること）

- ①論文の題名（仮題でも可）、②種類、
③日本語要旨、④分量

↓

9月末日…原稿締切り

※受取方法：郵送のみ。封筒に朱書きで「立命館平和研究原稿在中」と明記すること。

※提出物：完成原稿と日本語要旨（200字程度）と英語タイトルと英語要旨（250字程度）を印刷とデジタルデータで提出。

↓

3月上旬…刊行（予定）

5. 投稿原稿については、編集委員会が審議し、掲載、一部書き直し、返却（掲載不可）などの結果を原稿締切り後3ヵ月以内に投稿者に連絡します。

6. 二重投稿はお断りします。

7. 論文に画像を掲載するなど、著作権許諾が必要な記事については投稿者が責任を持って許諾を得ること。

8. 備考

原稿料はお出ししません。

掲載原稿1編につき、本誌5部、抜刷り30部を進呈します。

9. 原稿提出先・お問合せ先

立命館大学国際平和ミュージアム

立命館平和研究編集委員会

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

TEL.: 075-465-8151 FAX.: 075-465-7899